

ろう。「□神マ」は第八七次調査出土木簡にもみえる(『木簡研究』第八号、大宰府跡・不丁地区<sup>(5)</sup>)。両者の関連性を考えるべきであろうが、ともに上半部を欠いていることもある、「下」字の解釈が容易でない。

以上、第九八次調査出土木簡について簡単に報告した。個々の内容はともかく、基本的な性格は前号などで報告したSD二三四〇出土木簡と共通すると考えられるので、総括は省略する。前述のように、この溝からは一七二点が出土したわけであるが、年紀をもつなど個々の内容もさることながら、大宰府史跡ではこれほどのものがまとまって出土した例はないので、これらは単に新史料というだけでなく、今後の大宰府研究にも資するものといえるだろう。

## 二 月山東官衙地区

(1)  $\times \square \times \square \times \square$

(82)  $\times$  (27)  $\times$  2 081

腐蝕が著しく、削肩に近い断片である。具体的な内容などは明らかでないが、何らかの数量を記したもののように、本来は付札的なものであった可能性も考えられる。当地区から出土した最初の木簡であり、また柱穴から出土した点でも初めてである。

## 9 関係文献

九州歴史資料館『大宰府史跡－昭和六一年度発掘調査概報』(一九八七年)

(倉住靖彦)

## 『向日市文化資料館研究紀要』 創刊号

「東土川西遺跡の弥生土器

－乙訓地域における第5様式・庄内式土器の変遷－」

国下多美樹

「長岡京の墨書き土器」

B5版 51頁 一九八七年増刷

清水 みき

清水 みき

## 『向日市文化資料館研究紀要』 第二号

「墨書き土器の機能について」

一都城(長岡京)の墨書き土器を中心にして

「長岡京廢都以後の土地利用」

B5版 48頁 一九八七年発行

清水 みき  
山中 章

△申込先／ 向日市文化資料館

〒617 京都府向日市寺戸町南垣内40-1

TEL 075-931-1182

頒価 各500円  
送料 各200円